

投稿規定

1、 投稿の内容について

本誌への投稿原稿は、リハビリテーション医学およびその関連領域の進歩に寄与する学術論文を主体とし、他誌に掲載されていないもの、もしくは掲載予定のないものに限る。

臨床研究はヘルシンキ宣言に、動物実験は医学生物学的研究に関する国際指針の勧告の趣旨にそったものとする。

2、 著作権について

本誌掲載後の論文の著作権は、埼玉県包括的リハビリテーション研究会に帰属し、掲載後は本研究会の承諾なしに他誌に掲載することを禁じる。

3、 著者について

本誌への投稿の筆頭著者は埼玉県包括的リハビリテーション研究会会員に限る。共著者は会員・非会員を問わない。

4、 投稿区分について

投稿論文の区分は下記の基準によるものとする。

- ①原著：独創性があり、結論が明確である研究ないし報告。
- ②短報：斬新性があり、速やかな掲載を希望する研究ないし報告。
- ③症例報告：興味のある症例の報告。
- ④その他：“総説”、“会員の声”など。

5、 投稿原稿について

本規定および執筆規定に従うものとする。

6、 採否について

投稿論文の採否は、その分野の専門家である複数の査読者の意見を参考に編集委員会で決定する。

修正を要するものには編集委員会の意見を付けて書き直しを求める。修正を求められた場合は 30 日以内に修正原稿を再投稿すること。その期限を過ぎた場合は新規の投稿論文として処理される。

7、 校正について

著者校正は初校のみとする。この際、文章の書き換え、図表の修正は原則として認めない。

8、 掲載料について

掲載料は規定の範囲内までは無料とするが、それを超えるものに関しては実費

負担とする。

9、 別刷について

別刷は全て有料とし、実費負担とする。

10、 送付について

投稿原稿は、Microsoft Word (Windows) 形式および jpeg 画像とし、E-mail に添付して下記宛に送付するものとする。

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション科内

埼玉県包括的リハビリテーション研究会事務局 TEL&FAX : 049-228-3529

E-mail : SaiCR-jimu@umin.ac.jp

執筆規定

- 1、 言語は和文または英文とする。
- 2、 原著論文は和文・英文を問わず、表題頁、著者頁、要旨および key words、本文、文献、図説明文および図・表の順で構成されるものとする。短報、症例報告、その他については原著論文に準ずるものとする。
 - ①1 頁目は表題頁とし、表題（和英）のみを掲載するものとする。
 - ②2 頁目は著者頁とし、筆頭著者および共著者の氏名（和英）、所属、住所、連絡先住所（所属と同じ場合は不要）を記載するものとする。英文論文の場合でも、日本国内に在住の場合には必ず和文で連絡先住所を記載するものとする。
 - ③3 頁目は要旨頁とし、Key words（和英、3 語）を明記のうえ、和文の場合は 400 字以内、英文の場合は 250 語以内で論文の要旨を記載するものとする。
 - ④本文は①～③の必要頁とは別に頁を改めて始め、頁数を通し番号でふるものとする。
 - ⑤図・表は 1 頁に 1 点ずつ記載するものとする。なお、和文、英文を問わず、図には原則として説明文を付けるものとする。
 - ⑥図・表はモノクロ印刷した際に判別しやすい色・線種を使用するものとする。
- 3、 和文論文は A4 判の用紙を用い、横書きで記載し、本文については 400 字（20×20）をもって 1 枚とする。英文論文も A4 判の用紙を用い、ダブルスペースにて記載する。いずれもパソコンのワープロソフトを使用することが望ましく、文字の大きさを 10-11 ポイント程度、行間を 5mm 以上に設定するものとする。
- 4、 原稿はひらがな・口語体・現代仮名遣い・常用漢字を用い、学術用語は原則として「日本医学会医学用語辞典（日本医学会）」ないし「リハビリテーション医学用語集（日本リハビリテーション医学会）」に従うものとする。
- 5、 数字はアラビア数字（算用数字）を用いることにする。

6、 数量は MKS (CGS) 単位とし、mm、cm、m、ml、L、g、kg などを用いることとする。

7、 特定の機器・薬品名を本文中に記載するときは以下の規定に従うものとする。

①機器名の記載にあたっては、一般名（会社名、商品名）と記載する。

<表記例> MRI (Siemens 社製、Magnetom)

②薬品名の記載にあたっては、一般名（商品名）と記載する。

<表記例> 塩酸エペリゾン (ミオナール)

8、 文献は著者の本文での引用順またはアルファベット順に記載し、通し番号をふるものとする。本文中の引用箇所には上付き数字で文献番号を記載するものとする。

9、 文献の省略は原則として Index Medicus に従い、引用文献の全著者名を記載すること。単行本の引用に際しては、書名の他に editor(s) を記載し、また proceeding(s) ないし抄録引用の場合には、末尾に必ず (proc) ないし (抄) と記載すること。なお、英文論文中に日本語文献を引用する際、雑誌名は英語あるいはローマ字 (Japanese) で記載するものとする。

<表記例>

- 1) 陶山哲夫、高橋邦泰、渋谷秀雄、高倉保幸、赤坂清和：脊髄損傷者の社会生活状況－10年以上の経過例－. 日本パラプレジア医学会雑誌、2001；14：196-197
- 2) 三上真弘 編：下肢切断者リハビリテーション. 医歯薬出版、東京、1995
- 3) 浅山 晃：腰部脊柱管狭窄症. 臨床リハ別冊実践リハ処方 (米本恭三、石神重信、浅山 晃、木村彰男、平澤泰介 編). 医歯薬出版、東京、1996；pp188-192
- 4) Akasaka K, Onisi H, Momose K, Ihasi K, Yagi R, Handa Y, Hoshimiiya N : EMG Power Spectrum and Integrated EMG of Ankle Planterflexors during Stepwise and Ramp Contractions. Tohoku J Exp Med, 1997 ; 182 : 207-216
- 5) Downey JA, Myers SJ, Gonzalez EG, Lieberman JS (eds) : The Physiological Basis of Rehabilitation Medicine. 2nd ED, Butterworth-Heinemann, Boston, 1994
- 6) Liu M, Ishigami S : Toward future research. In Functional Evaluation of Stroke Patients (ed by Chino N, Melvin JL). Springer Verlag, Tokyo, 1996 ; pp125-142
- 7) 大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課. 人口動態調査；年次別にみた死因順位. Available from URL : <http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/gaiyo/k-jinkou.html> (2009年2月7日引用)